

## 中外日報より

### 第2回 印度と米国へ

……………曹洞宗光寺海外留学僧派遣育英会

曹洞宗の善光寺住職黒田武志氏 横浜市港南区日野

町一六〇四が一昨年に設立した「善光寺海外留学僧派遣育英会」は、二回目となる今年も留学僧二人の採用を決定し、四月から仏教発祥の聖地インドと、文明の先進大国であるアメリカのロサンゼルス禅センターへ、それぞれ派遣する。広く世界に活眼を開く人材の育成が同育英会を設立した黒田氏の願いである。世界の大勢に即応して教化の実を挙げるには、国際感覚を身につけた僧侶の輩出を待つかないとするれば、自ら宗派を越えて道心ある青年僧を求め、東西の十字街頭に立つて釈尊の教法宣布を実践する人材を育てようとの決意である。

留学僧は往復旅費及び滞在に要する必要経費を育英会から支給される。一人は富山県氷見市触坂の安井隆同氏(三五) 浄土宗で、もう一人は静岡県榛原郡

榛原静波の曹洞宗釣学院副住職河内義宣氏(四一)。

安井氏は大阪府枚方市の成雲寺住職を昭和五十八年二月に辞任し、文字通り一衣一鉢、寝袋を携えてインドへ旅立った。釈尊が生涯をかけて説法行脚した聖地を三年がかりで歩くことを発願し、現在、カルカッタ大学の大学院博士課程に在学中である。

河内氏は座禅を「安樂の法門」として受けとるには道なお遠しの憾みありとして、また今日の日本仏教の姿を根本的に考え直すために、初心に還って修行したいと留学を志したという。

ここに第二回留学僧二人の留学志願レポート一篇ずつを抜粋して紹介し、併せて、この育英事業の意義を高く評価する東方学院院长中村元博士(東京大学名誉教授)に期待の言葉を寄せてもらった。